一枚起請文

もろこし我朝にもろもろの智者達の沙汰し申さるる観念の念にもあらず　また学問をして念のころを悟りて申す念佛にもあらず　ただ往生極楽のためには南無阿弥陀佛と申してうたがいなく往生するぞと思い取りて申す外には別の仔細候わず　ただし三心四修と申すことの候うは皆決定して南無阿弥陀佛にて往生するぞと思ううちにこもり候うなり　この外に奥ふかき事を存ぜば二尊のあわれみにはずれ本願にもれ候うべし　念佛を信ぜん人はたとい一代の法をよくよく学すとも一文不知の愚鈍の身になして　尼入道の無智のともがらに同じうして智者のふるまいをせずしてただ一向に念佛すべし

為証以両手印

浄土宗の安心起行この一紙に至極せり　源空が所存この外に全く別義を存ぜず　滅後の邪義をふせがんがために所存をしるし畢んぬ

建暦二年正月二十三日　大師在御判

為

願主　　年　　月　　日　浄書